

今月の表紙

アジアリーグアイスホッケー 日光シリーズ開幕



9月26日(土)、霧降アイスアリーナで、アジアリーグアイスホッケーのH.C. TOCHIGI日光アイスバックス(以下、バックス)対東北フリーブレイズ戦が開催されました。今シーズンのバックス地元開幕戦となるこの試合には、1,600人を超える人が観戦に訪れ、会場は熱気に包まれました。

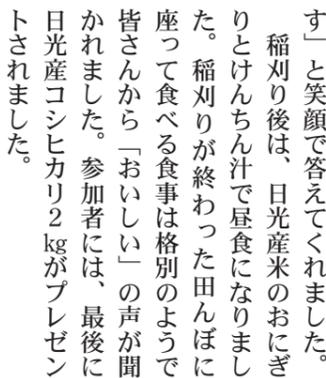
試合は序盤、バックスが7分、19分に得点し2対0とリード。中盤の37分に得点を許し、2対1のまま終盤へ。そして、終了間際の59分、バックスが勝利を確実にする3点目を決めて、地元での初戦を勝利で飾りました。

この試合で好守備を連発し、チームのピンチを何度も救ったゴールキーパーの菊地尚哉選手は、試合後のインタビューで、「これからも1つ1つ大切に勝っていきたい」とファンに向けて話していました。



アグリ体験ツアー

10月5日(月)、アグリ体験ツアーが開催されました。市とJAかみつがで共催するこの事業。今回は、日光産コシヒカリの収穫体験とカントリーエレベーターや低温倉庫といった農業施設の見学、大豆製品を製造している太子食品(株)の工場見学が行われました。



参加者の加山さん(今市)に感想を伺うと、「私は春のイチゴのツアーに続いて2回目です。生まれ初めて初めての稲刈りは大変でしたが、とても楽しかったです。今後のいろいろなツアーにも参加したいです」と笑顔で答えてくれました。稲刈り後は、日光産米のおにぎりとおけんちん汁で昼食になりました。稲刈りが終わった田んぼに座って食べる食事は格別のように、皆さんから「おいしい」の声が聞かれました。参加者には、最後に日光産コシヒカリ2kgがプレゼントされました。



日光けっこうフェスティバル

10月10日(土)、日光運動公園で日光けっこうフェスティバルが開催されました。会場では多くの屋台が食べ物や飲み物などを販売し、日光下駄飛ばし選手権大会やフリーマーケット、キャラクターショーなどが行われました。直径2mの大鍋で煮込んだ芋煮を振る舞う関東一芋煮会には、芋煮が出来上がる前から大勢の人が列を作り大盛況。約3,000人分の芋煮があつという間に無くなりました。芋煮を食べた手塚さん



(所野)は、「芋煮はとてもおいしく、イベントの雰囲気も素晴らしいですね。また来年も来ますよ」と話してくれました。今回は、テレビなどで活躍中のお笑い女性マジシャン荒木巴さんのマジックショーも行われ、会場は大いに盛り上がりしました。

上三依水生植物園 写真展

9月1日(火)～30日(水)の間、上三依水生植物園で写真展が開催されました。園内の色とりどりの草花や風景の写真など40点の応募作品が展示され、その作品を、8月1日～31日の間に来園した方たちに投票してもらいました。投票総数51票のうち、54票を獲得し見事最優秀賞作品に選ばれたのは、阿久津弘さん(森友)が撮影した「ヒマラヤノアオイケシ」の写真でした。



阿久津さんの作品。



秋の交通安全運動 街頭啓発

9月21日(月)～30日(水)に行われた秋の交通安全県民総ぐるみ運動。市内では運動に先立ち、9月18日(金)・19日(土)に街頭啓発活動が行われました。市内の街頭啓発活動は、16か所で行われました。警察署員や交通安全協会の方々が、ドライバースペースに安全運転を呼び掛け、チラシや啓発物品を配布しました。

山のものなんでもござるまつり

今回で14回目を迎えた山のものなんでもござるまつりが9月27日(日)、みよりふるさと広場(中三依)で開催されました。当日は、肌寒いくらいの天気でしたが、多くの来場者でにぎわいました。会場には、地域の特産品や打ちたてそばなどを直売するテントが並び、特に、野菜の直売には多くの人が集まりました(写真①)。また、特設ステージで行われた打ちたてそばの早食い競争は、5人1



組で行われ、合計25名が参加しました(写真②)。2組目に出場し、参加者中最短の25秒で競り勝った佐藤顕崇さん(芹沼)は、「つゆを付けずに食べた作戦勝ちですね」とうれしそうに話してくれました。ステージでは、ほかにもみより返し音頭や龍王太鼓、福引大会などのさまざまなアトラクションが行われ、訪れた人々を楽しませていました。

24時間バレーボール大会



9月12日(土)から13日(日)にかけて、大沢体育館で24時間バレーボール大会が開催されました。今年、例年よりも多い108チームが参加したため、27時間に渡って試合が行われました。

今回で20回目を迎えたこの大会。その記念イベントとして、12日には、北京五輪男子バレーボール日本代表の齋藤信治さんによる講演会とゲームへの飛び入り参加がありました。講演会では、厳しい練習やバレーボールを通して出会った人たちのこと、北京五輪での裏話などを話してくれました。そして、各チームの助っ人として参加したゲームでは、迫力満点のジャンプサーブや強烈なスパイクを披露。力強いプレーが決まるたびに、会場からは拍手が起きていました。

試合に参加していた、今市中学校バレーボール部の藤田麻由さんは、「齋藤選手は大きくてすごい迫力なので、相手コートに入ると、ちょっと怖かったです。スパイクが重くて全然取れませんでした」と、感想を聞かせてくれました。

